

平成24年年頭のご挨拶

平素より当協会にお寄せ頂いております皆さま方のご協力と暖かいご支援に対し厚く御礼を申し上げます。新年を迎えるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

まず始めに昨年の東日本大震災により被害を受けられた被災者の皆様へ謹んでお見舞い申し上げます。

昨年3月11日に発生しました東日本大震災は、被災地へ未曾有の被害をもたらしましたが、被災地以外でも製造業を始めとした多くの企業の生産活動へ甚大な被害を及ぼしました。特に今年度上期においては、サプライチェーンの途絶、首都圏での計画停電、夏の電力使用制限令など、生産活動に対してもこれまでにない大きな混乱が生じました。また10月に



(社)日本陸用内燃機関協会
会長 菱川 明

発生しましたタイの洪水でも、その影響が広範かつ長期にわたっており、多くの企業の生産活動に影響を与えております。

一方、世界経済に目を向けますと、ギリシャを始めとした欧州各国での財政危機の深刻化、米国景気減速など先進国では財政不安が顕在化し、この影響により円相場は、対ユーロ・対米ドルともに記録的な円高水準が続いております。新興国や資源国の経済成長は引き続き堅調に推移していますが、中国では金融引き締めによる一時的な景気減速が懸念されるなど、楽観を許さない状況が続いております。

このような状況の下、当協会が集計しています、H23年1月-10月の陸用内燃機関の生産実績および輸出実績を見てみますと、ディーゼルエンジンの生産は、対前年比約23%増の128.2万台、金額でも対前年比約23%増の3087億円、ガソリンエンジンの生産は、約10.9%減少し346.9万台、金額では前年比約2%減の、781億円となっています。

輸出台数をみますと、ディーゼルエンジンは前年同期比約24%増加し、71.7万台、ガソリンエンジンは前年同期比0.5%減少し、212.6万台となっております。

統計の数値をみますと、ガソリンエンジンの国内生産が減少しておりますが、これは携帯用ガソリンエンジンの排出ガス2次規制が、2011年1月から実施されたことに伴う2010年12月までの駆け込み需要への生産対応が大きく影響しているものと思われます。一方ディーゼルエンジンは生産台数、輸出台数とも前年より増加しております。国内では建機・発電機といった震災復興需要に支えられていること、輸出では新興国や資源国において建機・発電機の需要が好調であることに支えられているものと考えます。

当協会を取り巻く環境に目を向けますと、今年は北米において56kWから130kWまでのディーゼルエンジンに対して、今までより厳しい暫定4次規制が開始されます。さらに米国を皮切りに同等の排ガス規制が先進諸国において順次適用されることが決まっております。中国においても排ガス規制強化の動きがあります。ご存知の通り、北米の暫定4次規制については、適応することで非常に高い環境性能を実現することができる一方、コスト面の影響が避けられないものといわれており、まさに「環境対応の新時代」を迎えようとしています。

このように私たちを取り巻く環境は、非常に厳しいものである一方、バイオエネルギー・ハイブリッド・スマートグリッドといった環境技術に対する社会的関心の高まりなど、成長のチャンスと捉えられる変化も同時に進行しております。会長就任時のご挨拶で申し上げた通り、私たちの内燃機関は、一時期はクリーンエネルギーの対極であるかのように言われたこともありますが、その長い歴史の中で進化し環境対応も進んでいます。現在では社会へもっとも貢献し、かつ信頼できる動力源であることに間違いはありません。こうした環境の下、会員各社様のたゆまぬ研究と努力により、内燃機関はさらに進化し続け、社会へ貢献し続けるものと思っております。

当協会の会員各社様が、この変化の激しい事業環境下で、確実な成長と発展を維持継続していくため、陸内協としましても、皆様をサポートする責務をしっかりと果たし続けていく所存です。こうした私たちの活動は、きっと最終的に地球環境改善等の社会貢献や業界の発展につながるものと信じております。

最後になりましたが、皆様の一層のご活躍とご健勝を祈念致しまして私の年頭の挨拶とさせていただきます。